

いのち・とき・なかま

豊中五中
学校だより
H28(2016)
3.7 発行

気持ちのこもった歌声 あいがとうを歌う会

春の暖かさを感じる3月4日(金)、多くの保護者の方にもご参加いただき、「ありがとうを歌う会」を実施しました。「合唱祭」と「3年生を送る会」をひとつにして、数年前から行われています。学校を引っ張ってきてくれた3年生、友だち、先生、家族、いろんな人への「感謝」の気持ちを歌に込めるものです。3学年そろって取り組み、発表する最後の大きな行事でしたが、きれいなハーモニーや迫力ある歌声、本気の姿に感動しました。練習の成果が発揮されていたと思います。本番の直前まで、教室や大階段で熱心に練習する姿がありました。

クラス発表は、どの学年も緊張感と一生懸命さがひしひし伝わってきました。1年はトップバッターで緊張し、声の中々出ませんでした。姿勢も良く、練習で言われてきたことを意識していました。学年合唱の「大切なもの」「友」は声もきれいにそろい、この季節にふさわしい曲でした。本番が一番よかったと感じました。64期、やればできる！



2年はクラス合唱から声量が大きく、声に力を感じました。よく練習して歌いこんでおり、リハーサルからしっかり行動できていました。学年合唱の「はばたこう明日へ」は卒業式での贈る歌。ハーモニーも歌詞も素敵でした。「遙か」もテンポの難しいところもあったけれど、学年皆で協力して歌いきっていましたね。63期らしかったです。

そして3年生。他の学年やクラスには負けない、自分たちで絶対成功させる、大きな声で全力で歌うぞ！という強い意気込みを一人一人が持

っているのがわかりました。圧倒的な迫力で歌う本気の姿はゾクゾクしました。会場のすべての人がひきつけられました。さすが3年生でしたね。学年合唱の「心の瞳」と「旅立ちの日に」は、今まで一緒に歩んできた62期で歌うのにふさわしい曲だったと思います。



学年合唱は3学年とも立派でした。練習では初めの頃、うまくいかなかったところもあったはずですが、授業やHRで練習を重ね、本番では見事な合唱を披露しました。とりわけ本気で歌う3年の姿は2年・1年に伝わり、「次は自分達の番だ、がんばるぞ」という気持ちにさせてくれたと思います。バトンがまたひとつ受け渡されました。

合唱は歌う人だけががんばっても成功と呼べません。会場一体となって作りあげるものです。今回は歌手、聞き手、指揮者、伴奏者、メッセージを読む人、司会進行、放送の係、皆のがんばりと協力で成功したと思います。この日のためによく練習し、入退場の姿勢も含めて、一人一人が歌う会を成功させようと意識していました。保護者の方からも「とてもよかった」との声をいただきました。



3年生には1・2年の学年と生徒会役員から、感謝の気持ちを込めたメッセージが送られ、3年からは後輩へと励ましの言葉がありました。また体育館の窓には、2年生が美術の時間に作った見事なステンドグラスが飾られ、披露されました。最後に、1、2年のかかげる花のアーチを通して、3年生が体育館を後にしました。

3年は公立一般選抜(3月10日)をはさんで、14日に卒業式を迎えます。気持ちをひとつにした今回の頑張りを活かし、胸をはってすばらしい卒業式にしていきたいと思います。在校生(2年生)も一緒に式を作っていきます。

忘れない 東日本大震災(3・11)から5年

東日本大震災から、早いものでまもなく5年になります。その日は、卒業式の予行をしていて、ニュースを知りました。亡くなった方、行方不明の方は合計1万8千人を超え、今なお約18万人のかたが、仮設住宅や他の地域での不自由な生活を余儀なくされています。時間がたつにつれて、記憶は少しずつ薄れていきますが、1、17の阪神淡路大震災も東日本大震災も決して忘れてはならないと思います。地震と津波だけでなく、原発事故の処理や放射能の問題も続き、産業や生活の復興は、多くの課題を抱えています。新しいまちづくりが進んでいるところもありますが、何年もたっているのに更地のままであったり、原発事故の影響で、立ち入ることができないところも少なくありません。

いつも言うことですが、私たちは、家があり学校で勉強やクラブ、行事ができるのは「あたり前」だと思っていますが、その事がどれほど貴重でありがたいことか。被害に合われた方に黙とうするとともに、五中で大切にしている「いのち・とき・なかまにこだわり1日1日の生活を大切に過ごす」ということについて、また防災について、改めて考える機会にしたいと思います。

